

音楽科学習指導案

指導者 中野裕介

1. 日時 平成17年9月1日(木) 4校時
2. 学級 2年2組 男子19名 女子13名 合計32名 北校舎2階 第1音楽室
3. 主題 混声合唱の響き2

使用する教材 課題曲「ゴールのない歌」 自由曲「もえる緑をこころに」

4. 主題について

本題材は、本校最大の行事ともいえる「上中祭」との関連を図って設定されており、校内合唱コンクールの課題曲と自由曲を中心に、これまでの授業で学んだ既習事項を生かして、合唱の総合的な表現を目指すものである。また、この取り組みを通して、ひとりひとりの生徒の気持ちを結集し協力しながら自分たちの力で合唱を作り上げることや、クラス全員で合唱を作り上げた感動や成就感を感得させ、今後の学校生活や音楽的活動に積極的に取り組む気持ちを養うことをねらいとしている。

今年度の2年生の課題曲は「ゴールのない歌」である。昨年発表されたばかりの新曲であるが、どこか懐かしいメロディーであり、力強いピアノの前奏で始まるとても情熱に満ちあふれた曲である。曲は2番までの歌詞で構成されている。ユニゾンで始まり、クライマックスに向かって各パートに分かれていく構成が分かりやすくできている。しかも、各パートともに音程やメロディライン、そして和声的に無理が無く、それぞれの響きを確認しながら自分たちで音楽的な活動を進めていくことができる適切な曲である。自由曲に関しては、各学級とも学級の時間を利用して、自分たちの学級にふさわしい曲を厚生班やパートリーダーを中心に検討し、学級の話合いで候補曲を選んだ。各学級ともに自分たちの雰囲気合った選曲を心がけさせた。

生徒たちは、音楽活動に意欲的であり、特に合唱については熱心に取り組んでいる。これまでに、1年生では、「明るく大きな声で歌うこと」「正しい姿勢について」「口の開き方と発音について」「旋律にふさわしい強弱のつけかた」「曲にふさわしいリズムの表現」「歌詞を生かした表現の工夫」「旋律と和音について」などを学んでいる。また、2年生になってから「声部の役割と全体の響き」「旋律の抑揚を生かした表現の工夫」「フレーズの反復・変化・対照」「楽曲の形式とそれにふさわしい表現」などの学習をしてきた。よって、これらの既習事項を生かして合唱を作り上げていくことになる。2年2組は、音楽に興味・関心の高い者が多い反面、男子の音量や各パートのバランス、表現力に課題があるクラスである。本時で取り扱う「ゴールのない歌」は、各パートとも音取りを終え、他の声部を聴きながら全体の響きを意識しながら合唱している段階である。

そこで本時の授業では、自分たちの現段階の演奏で何が足りないのかを生徒から引き出し、楽譜をよりどころにして、どの部分がクライマックスなのかを感じ取らせ、クライマックスの部分の表現を工夫させたい。

5. 指導と評価の計画(別紙)

6. 本時の達成目標

音楽への関心・意欲・態度	進んで自分たちの合唱の問題点と解決方法を考え、その解決に向けて意欲的に活動に取り組もうとしている。
音楽的な感受や表現の工夫	楽譜をよりどころにして、曲のクライマックスを感じ取り、強弱記号を生かした表現の工夫をしている。
表現の技能	楽譜をよりどころにして、曲のクライマックスを把握し、強弱記号を生かした表現を工夫できる技能を身につけている。

7. 本時の指導構想

(1) 指導構想及び留意点

生徒はこれまでに、様々な場面で表現領域の合唱を経験してきた。その活動から学んだ合唱をするときに気を付けていることや意識していることを聞いてみると、「歌詞の内容・強弱・テンポ」などがあげられた。そこで、曲想表現の工夫第1次の本時の学習では、楽譜に印されている強弱記号に主眼を置き、曲の山場(クライマックス)を把握させ、その部分に付けられている強弱記号を生かして表現の工夫をさせたい。

(2) かかわり合いを生かす手だて

導入段階で、自分たちの演奏と範唱を比較することで、自分たちの演奏の課題を見いださせたい。そのことで、課題に対する必然性をつかませたい。また、具体的にどこをどのように表現するのか、考えを発表する場を設定して、生徒同士のかかわり合いを生かしながら、目標の達成に導きたい。

8. 本時の展開

< A > 達成度 < B > 学習速度 < C > 取り組み方(学習の仕方)
 < D > 見方・考え方 < E > 興味・関心 < F > 生活経験

段階	過程	時間	学習活動	評価の視点・方法	指導上の留意点	学習形態 教材・教具
導入	既習曲の合唱	15分	1. 課題曲の合唱をする。 2. 前時の合唱の録音と範唱CDを聴き、比較した感想及び自分たちの演奏の問題点を発表する。 3. 本時の学習課題を把握する。 本時の学習課題 「ゴールのない歌」のクライマックスの歌い方を工夫しよう。	2. 進んで自分たちの演奏の問題点を挙げることができる。 < 指名発表 > G1: 強弱の変化がはっきりしないことや曲の盛り上がりが分からないことを指摘できる。 G2: 各パートのバランスや歌詞がはっきりしない、出だしがそろわないなど技能の視点から指摘できる。 G3: 範唱演奏の優れている点に視点を置き、自分たちの演奏に足りない物を思考させる。	1. 課題曲「ゴールのない歌」の合唱をして、学習に意欲的に取り組む雰囲気作りをする。 2. 「何のために聴くと思う?」という問いかけにすることで、進んで自分たちの合唱の問題点を見つけようとする必然性をつくる。 < E > 3. 楽譜をよりどころにしなが、曲の盛り上がり(クライマックス)の表現を工夫するというを生徒の発言から引き出し、課題設定につなげたい。 < D >	MD 範唱CD 紙板書
展開	課題追究	30分	4. 「ゴールのない歌」のクライマックスを把握し、発表する。 5. 具体的にどこをどのように歌うか、お互いの意見をもとに、歌い方を確認する。 6. 確認したことをもとにクライマックスの部分を歌う。	4. 強弱記号の変化から「ゴールのない歌」のクライマックスを感じ取り、なぜその部分がクライマックスなのか理由も答えることができる。 < 学習シートの記述・発言内容 > G1: 強弱記号の変化や歌詞の内容から、クライマックスがDの部分であることを感じ取ることができる。 G2: 強弱記号の数からクライマックスがDであることを感じ取ることができる。 G3: クライマックスとは曲の盛り上がり(サビ)の部分であることを理解させ、そのために強弱記号がついていることを楽譜で確認させる。	4. 楽譜をよりどころにし、A~Eのそれぞれの部分の合唱(演奏)形態、強弱記号、歌詞、小節数等をてがかりに、曲のクライマックスを考えさせる。 < D > (必要に応じて・・・) ・楽譜についている強弱記号の強さの度合いを確認する。 ・各部分のピアノ伴奏を取り出して確認させる。 5. なぜそこに強弱記号がつけられているのか、歌詞の内容や音の高さなどをよりどころにして、工夫させる。 ・歌い方のイメージを、や矢印を使って、視覚的に表現しやすい様に工夫する。 6. 教師主導で指導する。 ・場合によってはCとのつながりも説明する。	学習シート 紙板書
終結	まとめ	5分	7. 「ゴールのない歌」のクライマックスの歌い方を意識させ、全曲を通して合唱する。 8. 次時の確認をする。		7. 今日学習したことは何だったのかを確認してから、合唱させる。 < A > 8. 次時はA、B、Cの部分の表現を工夫することを伝える。	

2 年 音楽		単元（題材）名 みんなで創る混声合唱		総時間 8 時間扱い			
<p>学習指導要領の指導事項</p> <p>A 表現</p> <p>ア 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい歌唱表現を工夫すること。</p> <p>エ 声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱や合奏をすること。</p> <p>キ 音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかわり合い、形式などの働きを理解して表現を工夫すること。</p> <p>ク 速度や強弱の働きによる曲想の変化を理解して表現を工夫すること。</p>							
単元の目標		主な学習活動	評価規準	音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能	
<p>・合唱コンクールの目的を理解し、それに向けて積極的に取り組む気持ちを持つことができる。</p> <p>・曲の構成や特徴を生かした創造的な合唱を作りあげることができる。</p>		<p>学習計画に沿った課題曲、自由曲のパート練習をすることができる。</p> <p>自分たちの合唱の課題を把握して、曲作りをすることができる。</p> <p>これまでの学習を生かした、まとめの合唱をすることができる。</p>	<p>B = 「おおむね満足できると判断される状況」</p>	<p>自分たちの合唱の問題点を考え、その解決に向けて意欲的に活動に取り組もうとしている。</p>	<p>曲の仕組みや声部の役割を理解して歌唱表現の工夫をすることができる。</p>	<p>曲の仕組みや声部の役割を理解して歌唱表現をする技能が身に付いている。</p>	
			<p>A = 「十分満足できると判断できる状況」の例</p>	<p>進んで自分たちの合唱の問題点と解決方法を考え、その解決に向けてリーダーシップを図りながら意欲的に活動に取り組もうとしている。</p>	<p>曲の仕組みや声部の役割を理解し、全体の響きに調和した歌唱表現の工夫をすることができる。</p>	<p>曲の仕組みや声部の役割を理解し、全体の響きに調和した歌唱表現をする技能を身に付けている。</p>	
			<p>C = 「努力を要すると判断される状況」の生徒への指導の手だての例</p>	<p>より良い合唱にするためには、何が必要なのかを楽譜の中から見つけさせる。</p>	<p>曲の中のクライマックスを把握させ、その部分にしぼってどう歌えば良いのかイメージをわかせるような助言をする。</p>	<p>一つずつの声部を重ねて響きを確認、響きの豊かさを求めるには、他の声部を聴き合うことが大切であることに気づかせる。</p>	
次	時	主な達成目標	主な学習活動	音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能	
	課題曲						
	自由曲						
1	1	1	パートリーダーを中心に、協力して自分のパートの音程を正しく、自信をもって歌うことができる。	自分の声や他の人の声を聴き、音程や発声を確認しながらパート練習をする。	自分のパートに関心を持ち、進んでパートの音程やリズムを覚えようとしている。		
2	2	2	自分たちの合唱の課題を把握し、音楽の構成要素（音色、リズム、旋律、和声を含む音と音との関わり合い、形式など）や表現要素（速度、強弱など）を手がかりに、曲作りをする。	声部の関わりや全体の響きに留意しながら、ハーモニーを感じ取り、合唱練習する。 歌詞の内容や、強弱・速度・音色・リズムなどの働きを感じ取って、表現を工夫する。	各声部の役割と全体の響きに関心をもって表現しようとしている。 歌詞の内容や、強弱・速度・音色・リズムなどの働きに関心を持ち、意欲的に表現を工夫しようとしている。	各声部の役割と全体の響きを感じ取って、合唱表現を工夫している。	各声部の役割を生かし、全体の響きが調和するように合唱表現をする技能を身につけている。
3	1	1	曲全体の構成を把握して、表現を工夫し、まとめの合唱をする。	曲全体の構成を把握して表現を工夫する。	曲全体の構成に関心を持ち、意欲的に表現の工夫をしようとしている。	曲全体の構成を感じ取って、曲にふさわしい表現の工夫をしている。	曲全体の構成を理解して、曲にふさわしい表現の工夫をする技能を身に付けている。

『ゴールのない歌』 番楽曲分析表

2年 組 番 名前

合唱(演奏)形態		小節数	調	歌詞と強弱記号
A	unis. (ユニゾン)	8	口短調	meno <input type="checkbox"/> レースのとちゅうで ふとたちどまり とおくのけしき ながめてみる
B	unis. (ユニゾン)	8	二長調	<input type="checkbox"/> ほんやりとした えいえんのよう な <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> くうきをむねにとかし <input type="checkbox"/> ながら
C	混声三部合唱	10	口短調	<input type="checkbox"/> だけとすぐに せなかが さけ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> cresc. かぜがほしいと まるで つばさがあるよう <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
D	混声三部合唱	17 (2番は12)	口短調	ああ ぼくらは なやむ ぼくらは まよう かべに <input type="checkbox"/> むかって <input type="checkbox"/> は <input type="checkbox"/> れたひの meno <input type="checkbox"/> こんなここにも <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ぼく <input type="checkbox"/> ら <input type="checkbox"/> は <input type="checkbox"/> うたう <input type="checkbox"/> ゴールのない このうたを
E	ピアノ後奏	5	口短調	

あなたの考えるこの曲のクライマックスは? ()



その理由・・・()